

令和3年度

我孫子中学校学校評価報告

1 ねらい

- ・教育活動、その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき教育活動・学校運営の改善を図る。

2 アンケート実施期間 令和3年12月

3 対象者 生徒854名、全保護者854名（生徒数）、全教員 74名

4 アンケート結果と考察

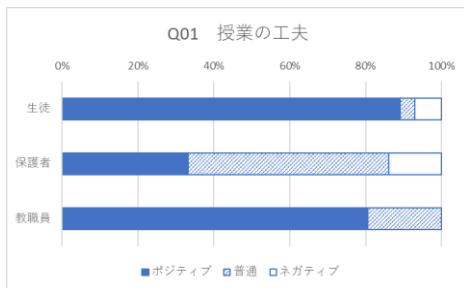
「そう思う（ポジティブ）、大体そう思う（普通）」と答えた生徒・保護者についての割合でグラフを作成。

< 生徒 >

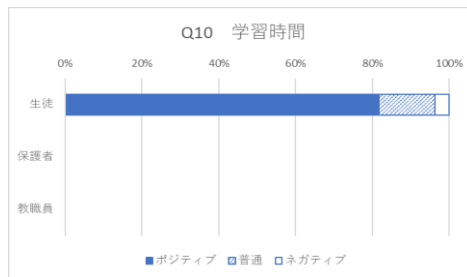
生徒の学習・学校生活などについて

- ・「分かりやすい授業」「一人一人を大切にした授業」「学力を高める努力」では、肯定的な評価でした。
- ・「1時間以上家庭学習をしている」生徒が9割を超えている。

【授業の工夫】

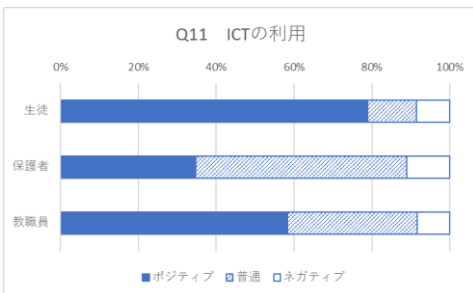


【学習時間】



【ICT機器の利用】

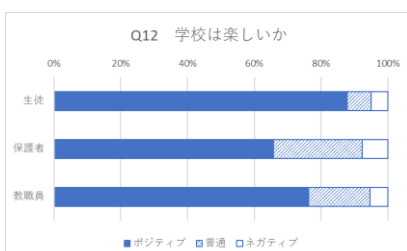
- ・「パソコンやタブレットなどを利用した授業は分かりやすい」と回答している生徒は8割近い。



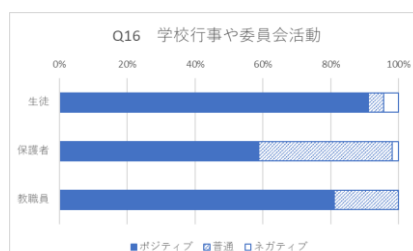
学校生活について

- ・学校生活への意欲、委員会や部会活動が昨年よりも向上している。部活動については意欲が昨年よりやや下がっている。
- ・「登下校のマナー」は昨年度と同様で、3つの学年とも意識が高い。
- ・「思いやりの心を大切にしている」と回答した生徒の割合が、高い水準を維持しており、相手の気持ちや立場になって考えようとする生徒が増えている。

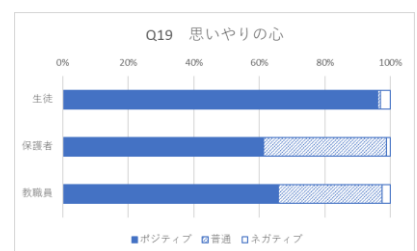
【学校は楽しいか】



【学校行事や委員会活動】



【思いやりの心】



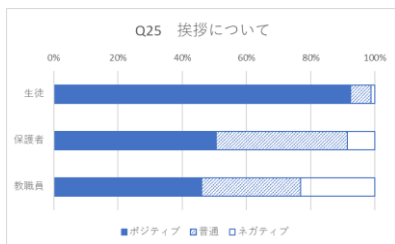
学校運営について

- ・学年・学校・学級だよりを通しての広報について、評価は90%を超えている。
- ・家庭との連携については、保護者・教師がほぼ同数である。
- ・「先生はわが子のことについて、適切に相談に応じている」ではやや教師の方が高いが、保護者も90%を超えている。
- ・環境整備については、昨年よりも保護者が5ポイント高くなり、教師は30%向上している。
- ・社会ルールやマナーの指導については、保護者・教師ともに昨年同様に高い。

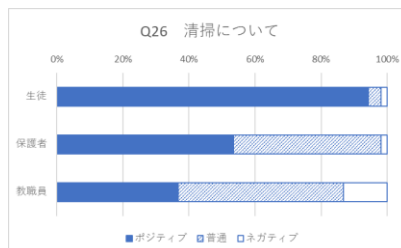
三大伝統について

- ・「挨拶」「清掃」「歌声」について、保護者・生徒と教師の間で、評価に差が出ている。しかし、昨年度と比べて、生徒・教師の全ての項目でポイントが伸びている。

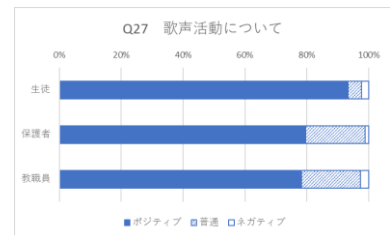
【挨拶】



【清掃】



【歌声活動】

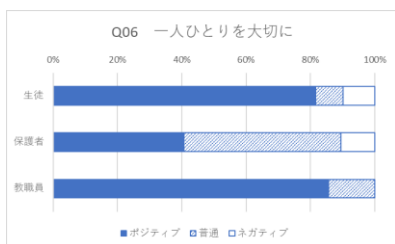


学習指導

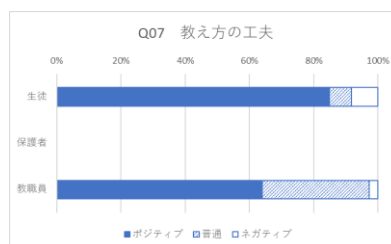
学習について

- ・「一人一人の生徒を大切にした授業」「教え方を工夫して授業を行う先生が多い」「仲間との協働」と答えた生徒がともに9割近い。
- ・他の生徒と協力できたと考えている生徒が9割を超えている。
- ・課題などの提出は、8割以上の生徒が期限を守ると答えている。しかし、提出期限ギリギリに提出する生徒も多い。

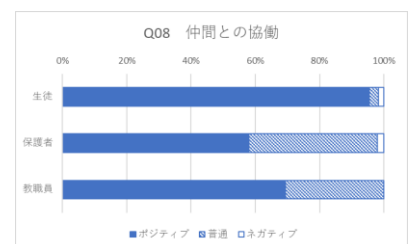
【一人ひとりを大切に】



【教え方の工夫】



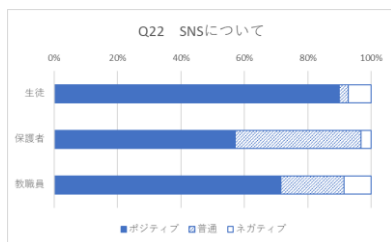
【仲間との協働】



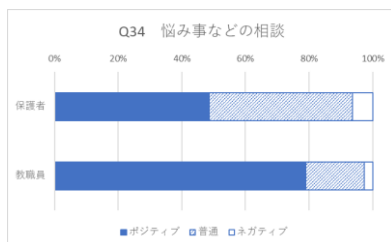
生徒指導について

- ・「悩み事や相談事に真剣に対応してくれる先生がいる。」は昨年よりやや下がっている。生徒と向き合える時間を大切にしていこう。
- ・「いじめのない学校づくり」への取組は、昨年度よりもやや下がっている。4割程度の生徒が足りないと考えている。いじめのない学校の実現に向けて、市教委や外部機関と連携しながら、さらに学校全体で取組を強化していく。
- ・SNS（ライン、ツイッター、フェイスブック、インスタグラム等）の利用については、90%の生徒が意識を高め利用している。

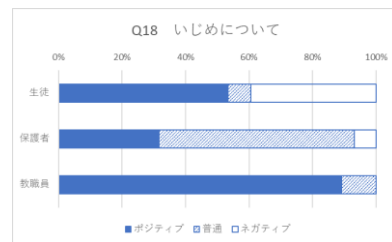
【SNSについて】



【悩み事などの相談】



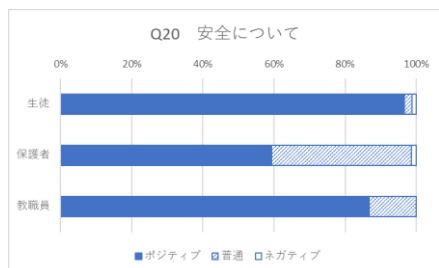
【いじめについて】



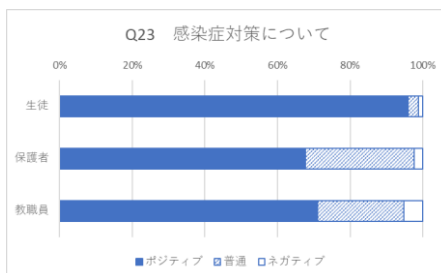
健康・安全面について

- ・「登下校の交通マナー」については、生徒・保護者とも9割以上肯定的な回答だ、保護者は、昨年よりも7ポイント下がっている。
- ・食育の充実については、保護者・教職員ともに昨年よりもポイントが伸びている。
- ・「安全への知識を深め、関心を高めている」では、教職員のポイントは伸びているが、保護者のポイントはやや下がっている。
- ・感染症対策については、9割を越える生徒が肯定的である。教職員の「生徒は感染症対策を意識した生活をしている」の評価が昨年より高くなった。生徒のソーシャルディスタンスを指導したり、毎日生徒の健康カードを確認したり、より感染対策に神経を使う機会が多いことを意識した。本校では、今まで感染予防に努めてきたが、今後も取り組みは続けていきたい。

【安全について】

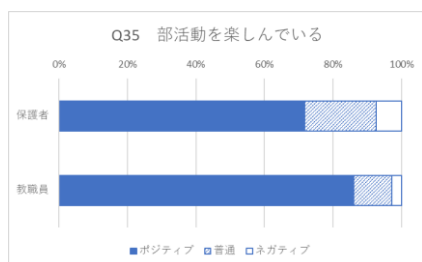


【感染症対策について】

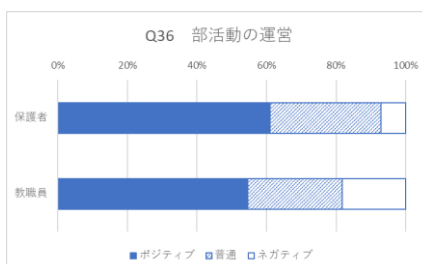


部活動について

【部活動を楽しんでいる】

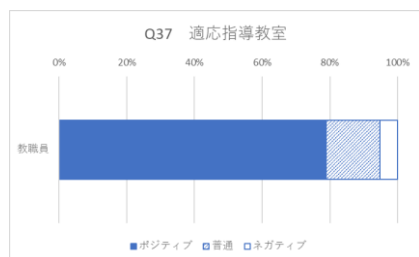


【部活動の運営】

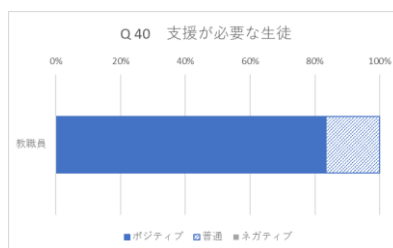


- ・「部活動を楽しみにしている」という評価が生徒・教職員ともに昨年より大きく伸びている。
- ・「部活動が適切に運営されている」は、昨年よりも保護者が6ポイントが伸び、教職員は5ポイントが低下している。

＊＊小中一貫教育について＊＊



＊＊特別支援教育について＊＊



- ・小中一貫教育のグランドデザインを理解している教員は70%以上である。
- ・支援を必要とする生徒について特別な配慮をして授業をしている教員は90%以上である。

<全体を通して>

今年度はいわゆる「コロナ禍」での学校運営で、様々な面で例年とは異なる対応が求められた。その期間中の学習保障対策を実施し、タブレットを活用した授業や授業を配信することで学習保障対策をした。また、古都体験学習(修学旅行)・自然体験学習(林間学校)の中止をはじめ、たくさんの行事で中止・縮小・方法の見直しなどの対応をせざるを得なかった。また、部活動も、活動の停止期間・制限をせざるを得なかった。その中で、生徒の育成のために何が可能かを常に考え、検討を重ね教育活動を実施してきた。

① 学習指導

- ・本年度も、「対話的」な授業を制限せざるを得なかった。講義式の授業が多くなる中であつたが、生徒の授業に対する肯定的な意見が多かった。また、協力して授業ができたという生徒が9割を越えた。タブレットを利用してスカイメニューやTeamsを活用し、全職員で研修を受け授業に取り組むことが出来た。スカイメニューやTeamsを活用することで、プリントを配付し提出させる作業はタブレットから提出させる職員もいた。
- ・「1時間以上家庭学習をしている」生徒が昨年と比べて向上した。今年度は、毎日タブレットを持ち帰ることで、タブレットを活用した宿題も多く自宅で学習する機会が増えた。どのように学習を進めていくのかを指導する良い機会にもなった。しかし、タブレット端末の扱いは今後の課題である。
- ・「宿題・課題の提出」について、全体としては昨年と同様であった。
- ・「パソコンやタブレットを利用した授業は分かりやすい」が向上し、ICT機器を扱うことが楽しい段階から、ツールとしての利用ができてきている段階になったと推察される。昨年度よりタブレット端末を利用した授業に取り組んできた成果と考える。来年度も、さらに研修を進め「主体的・対話的な分かりやすい授業」の実践に向けて努力していきたい。

② 生徒指導

- ・自転車の乗り方、登下校のマナーなどについての生徒の意識は高い状況である。しかし、住民の皆さまからマナーに関する連絡をいただくことも少なくない。特に、全校生徒が一斉に下校する時は歩行者も自転車もマナーに関して連絡があった。今年度は、PTA保護者による放課後の見守りや職員による安全指導を強化してきた。来年度も各家庭や地域、生徒会活動(安全委員会)と連携して、安全指導に努めていき

たい。

- ・携帯やメール、SNS等の使い方について、生徒の意識が高まっていることが伺える。しかし、SNS等による生徒間トラブルがあった。保護者・PTA・関係機関の協力を仰ぎながら、スマートホンの適正使用の指導を行いたい。
- ・挨拶の指導については、「さわやか杯」を本年度も実施し、体育祭で一定の成果を得た。「我孫子プライド」をスローガンに、生徒の意欲高揚を図り、歌声にも成果が見られた。委員会活動を活性化し生徒会とも連携し、引き続き啓発に取り組んでいく。
- ・いじめのない学校づくりについては、保護者・生徒ともに昨年度よりも肯定的な評価が増えた。しかしながら、まだ約5分の1の保護者・生徒が不十分と考えている。SNSの利用によるトラブルは減少しているが、無くなったわけではない。「いじめは許さない」という姿勢を教師・生徒と共有し取組を継続したい。又道徳の授業や生徒会活動を通して、継続的な啓発を行いたい。

③ 健康・安全面について

- ・「食育の知識・関心を高めている」の3ポイントが昨年よりも高まった。献立表の裏面を活用して、食育に関する記事を掲載したり、掲示物を作ったりしていることが功を奏した。今後も続けていきたい。

④ 部活動について

- ・昨年よりも「部活動を楽しみにしている」の評価が高くなった。今年度の部活動は、年間を通して制約がある中で活動している。部活動ができる喜びを感じている生徒が多いことの表れと考える。今後も制約のある活動が続くと予想されるが、その時の状況によりできることを見極め、活動をしていきたい。

⑤ その他

- ・本年度は、行事、生徒の様子をできる限りHPの更新を行い情報提供や発信を続けてきた。学校の様子を伝える手段として、来年度も取り組んでいきたい。
- ・授業の保護者参観が、例年に比べ少なかった。体育祭は3年生の保護者だけだった。歌声コンクールは全学年に参観していただくことができ、保護者の喜びの声とたくさんの方の励ましの言葉をいただいた。今後も厳しい判断が続くが、適切に判断し、できる限り実施できるようその方法を模索していきたい。
- ・ICTを活用して、全体で集まらずに始業式・終業式を行うなど、その活用方法を模索してきた。来年度もICT環境を充実させ、より活用できることを増やしていきたい。

【学校関係者評価】

- ・結果を見て、ICTの活用がうまくできているように思った。全体的に生徒も保護者も学校を信頼して活動できていることがこの評価から感じられた。
- ・いじめについての項目で思うことは、アンケートのみでなく日頃の生活の中で職員がなかなか目につかないような見えないところが大切であると感じた。
しかし、生徒が学校生活を送っている姿を見ると大変落ち着いているように感じる。
- ・地域の一員として小学校の保護者の話を聞くことがあるが、中学校は、オンライン授業が有効活用されているので良いと感じた。コロナの影響で長い休暇がなかったが、授業の遅れ等の不安やテストが学期に1回しかないので授業に出席できず生徒の中では不安を感じていた生徒がいたかもしれないと思う。
- ・コロナ関係で出席できなかった生徒は、オンライン配信を希望すれば行うようにしていた。実際に配信希望の生徒も多く一人一人に対応できた。
- ・SNSの使い方に注意が必要と思う。SNSでのトラブルで事件が起きているので使い方の指導が継続的に必要と感じる。
- ・SNSでのトラブルからいじめ等につながらないように注意していきたい。

- ・人を育てることは大切なことである。いままでできていたことがコロナ禍でできなくなったことがあると思うが、学校の活動は変わらず良い方向に向かっていると思う。この結果からの先生方の努力がよく見える。一地域の市民として学校を見守っていきたい。
- ・学校でのイベントが無くなったが、生徒の様子を見ると今の環境の中で充実した活動ができているように思う。いじめに関しては学校外でのプライベートの中で起きたことから発展しているところがあるように思う。

学校関係者評価でいただいた評価・提言を厳粛に受け止め、今後の学校経営に生かしてまいります。